

主要行等の平成 28 年 3 月期決算の概要

1. 損益の状況（グループ連結ベース）

- 28 年 3 月期は、債券等関係損益が増加したものの、預貸金利回りの悪化等により資金利益が減少したことや与信関係費用が増加したことなどにより、当期純利益は前期に比べ 5.4% の減少。

(単位：億円)

	26 年 3 月期	27 年 3 月期	28 年 3 月期	前期比
連結業務粗利益	102,382	111,088	108,941	▲ 2,147
資金利益	52,830	56,616	53,443	▲ 3,173
役務取引等利益	31,280	33,444	33,919	475
その他業務利益	7,272	9,357	9,675	318
うち債券等関係損益(※※)	1,831	3,209	4,107	898
経費	▲ 60,346	▲ 65,336	▲ 65,953	▲ 617
連結業務純益	42,042	45,701	42,684	▲ 3,017
与信関係費用(※)	2,069	▲ 1,396	▲ 4,390	▲ 2,994
株式等関係損益	3,470	3,420	3,889	469
うち株式等償却(※※)	▲ 652	▲ 218	▲ 764	▲ 546
当期純利益	29,506	28,820	27,240	▲ 1,580

※ 与信関係費用について、正の値は益を、負の値は損を表す。 ※※ 債券等関係損益、株式等償却については銀行単体ベース。

(参考)	26 年 3 月期	27 年 3 月期	28 年 3 月期
貸出金（末残）	273.4 兆円	288.8 兆円	295.3 兆円

(注) 貸出金は銀行単体ベースの銀行勘定計

2. 不良債権の状況（銀行単体ベース）

- 不良債権額は 27 年 3 月期に比べ減少、不良債権比率も低下。
(いずれも平成 11 年 3 月期の金融再生法に基づく開示以降で最低)

	26 年 3 月期	27 年 3 月期	28 年 3 月期
不良債権額	4.0 兆円	3.5 兆円	3.1 兆円
不良債権比率	1.33%	1.10%	0.97%

3. 自己資本比率の状況（グループ連結ベース）

- 国際統一基準行の総自己資本比率、Tier1 比率、普通株式等 Tier1 比率は、27 年 3 月期に比べ上昇。
○ 国内基準行の自己資本比率は、公的資金の返済を進めたことに伴い、27 年 3 月期に比べ低下。

(国際統一基準行：4 グループ)

(国内基準行：3 グループ)

	27 年 3 月期	28 年 3 月期		27 年 3 月期	28 年 3 月期
総自己資本比率	15.63%	16.17%	自己資本比率	13.95%	13.30%
Tier1 比率	12.33%	13.21%			
普通株式等 Tier1 比率	10.70%	11.38%			

(注) 記載金額・比率は、四捨五入して表示。